

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しんがくどう福岡東		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動スペースが広く、個別スペースやクールダウンの場所も整備されており、感覚過敏のある子どもも安心して過ごせる環境が整っている。	個別活動と集団活動を子どもの状況に応じて組み合わせ、柔軟に支援計画書を作成・実施している。	活動プログラムの振り返りやチームでの立案の機会を増やし、より柔軟で充実した支援サイクルを回せる体制を整える。
2	職員が子どもの特性や状況を丁寧に観察し、複数の専門的視点から支援を行うことで、保護者も子どもの成長を実感できる支援体制がある。	情報共有ツールを活用し、支援前後や日々の活動において職員間での連携や振り返りを行い、チームで支援の質を高めるよう努めている。	地域の園や関係機関との連携を強化し、保護者や関係者への情報共有をより円滑に行える体制を構築する。
3	保護者との日常的な情報共有や面談、メール報告等を通じて、子ども状況や支援方針を分かりやすく伝え、家庭との連携が密に取られている。	保護者会や座談会、講習会等を通じて保護者への支援や情報提供の機会を設け、家庭での関わりや理解を深める取り組みを行っている。	SNSやHP、通信等を活用した情報発信を充実させ、活動概要や行事予定、連絡体制などの情報提供を保護者により分かりやすく行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動や支援の振り返りやチームでの立案の機会が十分に確保されておらず、担当者に依存しやすい場面がある。	職員間での振り返りや連携の機会が限られているため、支援計画が主担当本位になりやすい。	活動前後や日々の支援後に、職員間で定期的な振り返りや計画の共有を行う仕組みを整え、チームで支援精度を高める。
2	保育所や園、地域の関係機関との連携や情報共有が不十分で、インクルージョン推進や支援の一貫性に課題がある。	地域機関や園との日常的な接点や共有の仕組みが十分整っていないことから、連携の継続性や情報の一貫性が確保されにくい。	保育所や園、地域の関係機関との連携体制を強化し、訪問支援や情報交換の場を定期的に設けることで、支援の一貫性とインクルージョン推進を図る。
3	情報発信(通信・HP・SNS等)の頻度や内容が十分ではなく、保護者や関係者が活動内容や連絡体制を把握しにくい場合がある。	情報発信や保護者への提供資料の仕組みが体系化されておらず、頻度や内容の調整が不十分である。	通信やHP、SNS等の情報発信を体系化・定期化し、活動内容や行事予定、連絡体制を保護者や関係者が把握しやすいよう改善する。